

2017年3月期 第3四半期決算概要

2017年1月30日
メタウォーター株式会社

- I 2017年3月期第3四半期の成果
および2017年3月期業績予想
- II 2017年3月期第3四半期決算概要

<セグメント情報>

□プラントエンジニアリング事業(略語:PE事業)

当セグメントでは、浄水場内の浄水プロセス、下水処理場内の下水処理プロセス、汚泥処理プロセスに使用する機械設備の設計・調達・建設と、それらを運転するための電気設備の設計・建設を核とした各種エンジニアリングを主たる業務としています。

□サービスソリューション事業(略語:SS事業)

当セグメントでは、浄水場、下水処理場、ごみ処理施設・リサイクル施設向けの機械設備や電気設備の補修工事、維持管理(保守・点検)、運転管理などの各種サービスを主たる業務としています。

<略語>

EPC Engineering, Procurement and Construction: 設計・調達・建設

O&M Operation and Maintenance: 運転・維持管理

PPP Public-Private Partnership(官民連携): 公共サービスの提供に民間が参画する手法

PFI Private Finance Initiative: 公共施設の設計・建設、運転・維持管理、資金調達に民間を活用する公共事業の手法

DBO Design, Build and Operate: 公共施設などの設計・建設、運転・維持管理に民間を活用する公共事業の手法

I 2017年3月期第3四半期の成果
および2017年3月期業績予想

II 2017年3月期第3四半期決算概要

'17/3期3Q決算ハイライト

* 損益

前期からずれ込んだEPC案件の一部が売上に貢献したことに加え、O&M、PPPも順調に推移。

3Q累計実績は概ね予想通り、AAS社*の連結効果を除いても増収増益。

* 受注高

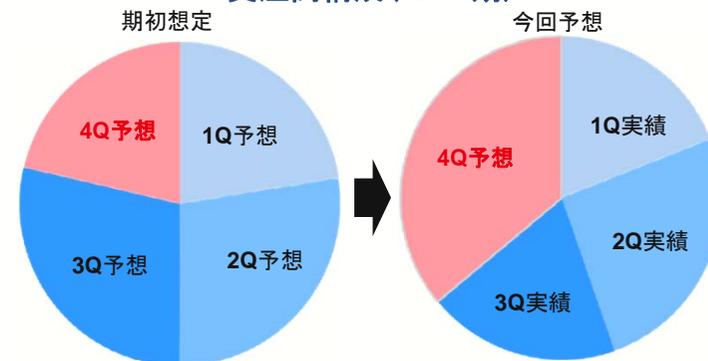
当期は例年に比べ1Qのウエイトが低く、4Qウエイトが大きいため、3Q累計実績は前期実績を下回った。

4Qは、PPP案件が集中しており、前期実績を大きく上回る計画。

売上高構成('17/3期)



受注高構成('17/3期)



(単位:億円)

	受注高 (受注残高)	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益*2
'17/3期3Q累計実績	806 (1,406) 前期比▲55 (▲20)	473 前期比+98	-42 前期比+21	-40 前期比+22	-23 前期比+21
'16/3期3Q累計実績	861 (1,426)	374	-62	-62	-44

5 *1AAS社: Aqua-Aerobic Systems, Inc. (本社・米国イリノイ州、'16/1 子会社化)

*2 親会社株主に帰属する四半期純利益

EPC

10億円規模の大型工事を8件受注(うち3件3Q)

- * 東京都下水道局「吾孺第二ポンプ所 沈砂池機械設備再構築工事」<3Q>
- * 名古屋市上下水道局「宝神水処理センター水処理設備工事(その3)」(愛知県)<3Q>
- * 日本下水道事業団「北部流域処理場汚泥処理設備工事その2」(埼玉県)<3Q>
- * 東京都下水道局「南部汚泥処理プラント脱水焼却電気設備再構築工事」<2Q>
- * 東京都下水道局「森ヶ崎水再生センター(西)高速ろ過設備工事」<2Q>
- * 沖縄県企業局「北谷浄水場2系ろ過池機械設備工事(その1)」<2Q>

3億円以上の大型工事を17件完了(うち9件3Q)

- * 大阪市建設局「大野下水処理場沈殿池設備工事」(大阪府)<3Q>
- * 東京都下水道局「新河岸水再生センター汚泥焼却設備3号炉撤去工事」<3Q>
- * 東京都水道局「金町浄水場第1高度浄水施設電気設備改良工事」<3Q>
- * 東京都下水道局「南部汚泥処理プラント発電設備その2工事」<2Q>
- * 埼玉県下水道局「南部流域処理場3号汚泥焼却炉機械設備改築工事」<2Q>

海外

- * ベトナム・ホイアン市 下水処理施設建設工事受注<3Q>
- * 米国・テキサス州 South Austin Regional 下水処理場向けクロスメディアフィルター受注<2Q>
- * AAS社の損益計算書を連結<'16/4~>
- * MUSA*北米事業をAAS社へ移管<'16/5~>

*MUSA: METAWATER USA, Inc. (本社: 米国ニュージャージー州、当社米国子会社)

'17/3期3Q累計の成果 –SSセグメント

O&M

長期・包括案件を含む 3件で業務開始(うち1件3Q)

- * 長岡市「妙見浄水場ほか4浄水場運転管理業務」(新潟県) <3Q>
- * 川崎市「加瀬水処理センター・処理区ポンプ場点検業務(長期契約)」(神奈川県) <1Q>
- * 宇都宮市「清原水処理センターほか2か所包括的維持管理業務(包括委託)」(栃木県) <1Q>

PPP(PFI/DBO)

新規案件を2件受注(うち1件3Q)、3件で業務開始(うち1件3Q)

- * 北九州市「配水管理システム整備維持管理事業」受注(福岡県) <3Q>
- * 愛知県「豊川浄化センター汚泥処理施設等整備・運営事業」運営・維持管理 業務開始 <3Q>
- * 見附市「青木浄水場更新事業」受注(新潟県) <2Q>
- * 荒尾市「水道事業等包括委託」業務開始(熊本県) <1Q>
- * 株式会社北九州ウォーターサービス 業務開始(福岡県) <1Q>

国内下水道で初のRO方式*

新潟県初のDBO方式
による浄水場更新

北九州市54%、当社19%、パートナー5社の出資による第3セクター

'17/3期通期業績・配当予想

(損益)

* 第3四半期累計実績は概ね予想通りに推移しており、
通期業績予想は据え置き。

(受注高)

* 翌期へのずれ込みはあるものの、通期予想の達成をめざす。

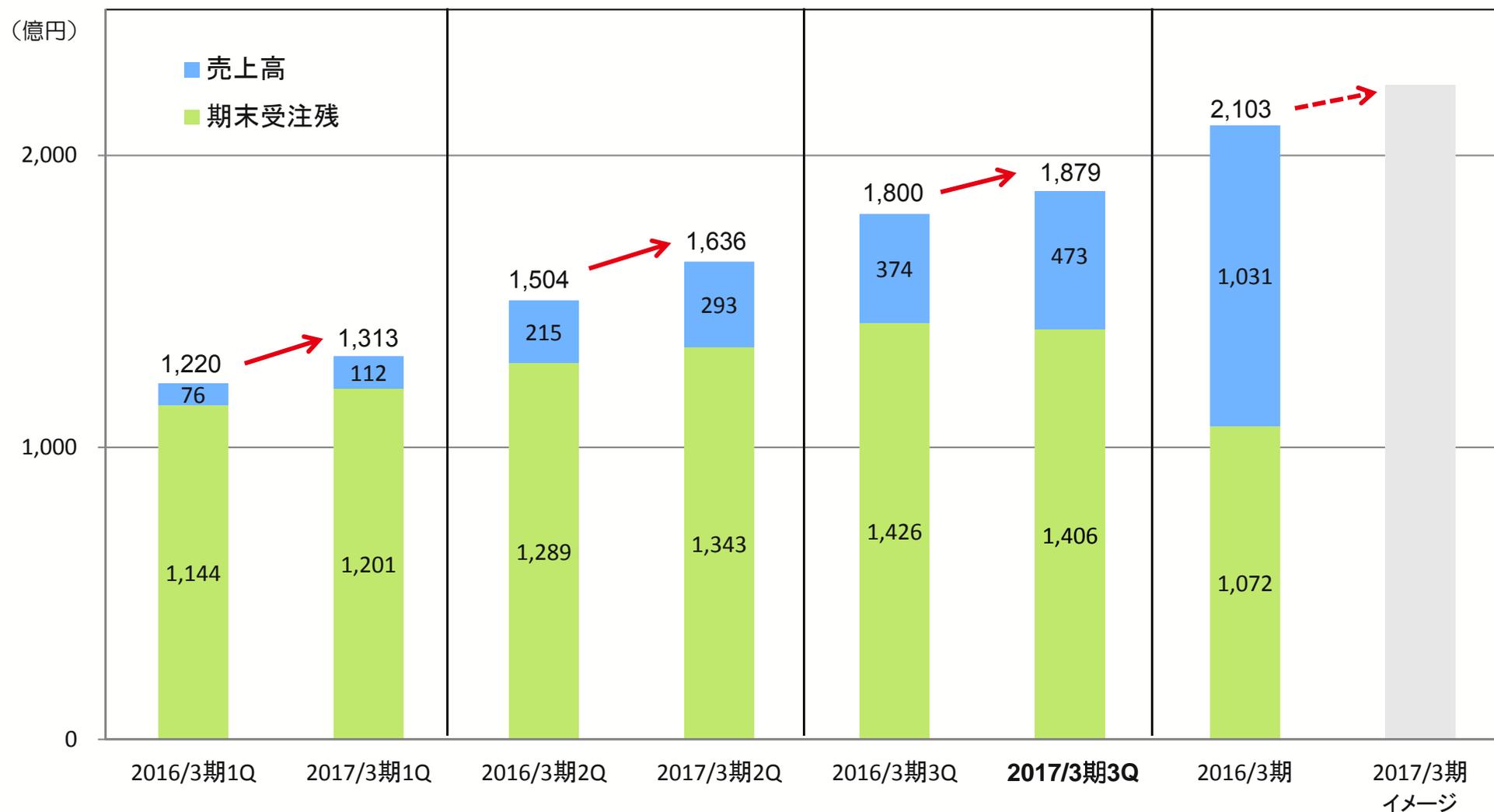
(億円)

	受注高	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益*	年間配当(円)
'17/3期 予想	1,260 前期比:+135	1,120 前期比:+89	62 前期比:+8	61 前期比:+10	40 前期比:+12	58
'16/3期 実績	1,125	1,031	54	51	28	58

* 親会社株主に帰属する当期純利益

売上高+受注残高の推移 -前期対比-

前期は、例年より売上計上が遅く、受注残高が膨らんでいたのに対し
 当期は、売上計上が進んでいるため受注残高は減少。『売上高+受注残高』は増加傾向持続。



- I 2017年3月期第3四半期の成果
および2017年3月期業績予想
- II 2017年3月期第3四半期決算概要

Ⅱ 2017年3月期第3四半期決算概要

- 1 連結損益計算書
- 2 セグメント情報
- 3 連結貸借対照表
- 4 連結キャッシュ・フローの状況

連結損益計算書

(単位: 億円)

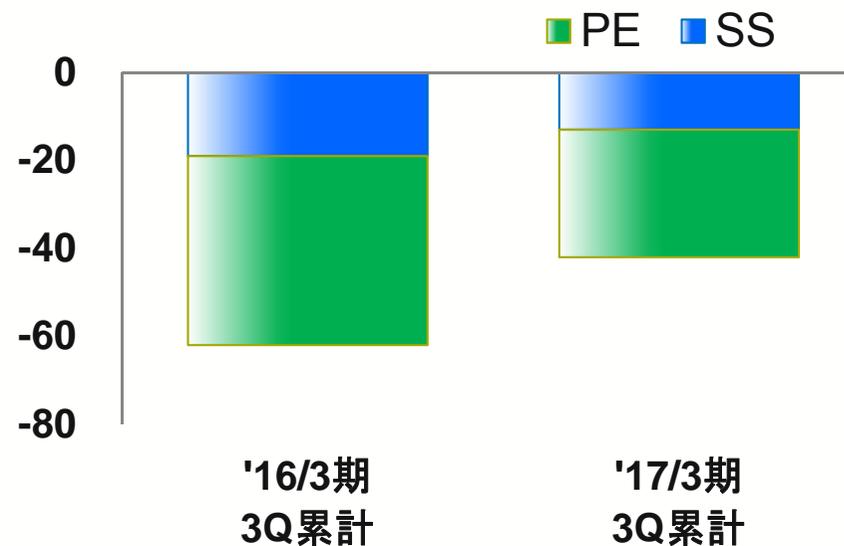
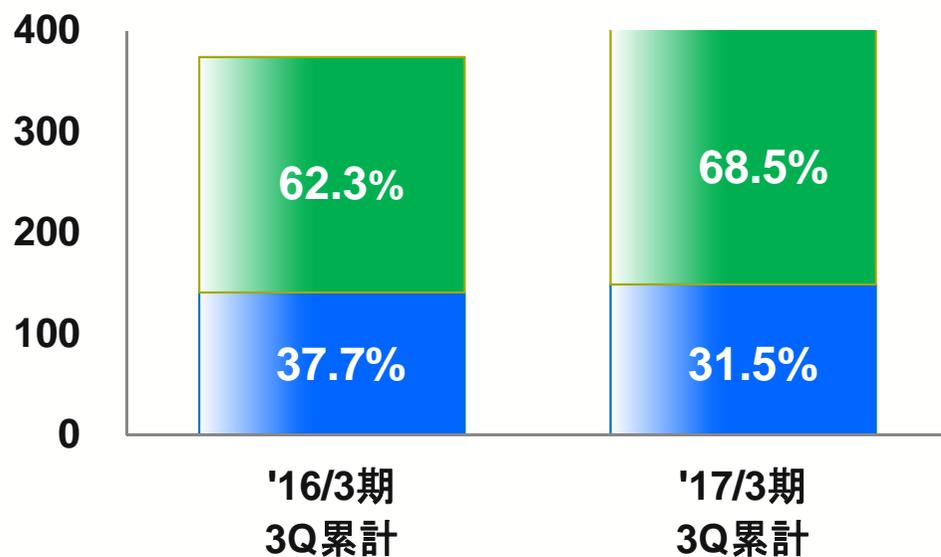
	'16/3期 3Q累計	'17/3期 3Q累計	増減
売上高	374	473	+98
営業利益	-62	-42	+21
(営業利益率)	-16.6%	-8.8%	
経常利益	-62	-40	+22
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-44	-23	+21

* 10百万円単位を四捨五入

(単位: 億円)

	売上高		
	'16/3期 3Q累計	'17/3期 3Q累計	増 減
PE	234	323	+90
SS	141	149	+9
合計	374	473	+98

	営業利益		
	'16/3期 3Q累計	'17/3期 3Q累計	増 減
PE	-44	-29	+15
SS	-19	-13	+6
合計	-62	-42	+21



連結貸借対照表

(単位:億円)

	'16/3期 期末	'17/3期 3Q末	増 減
現金・預金	209	166	▲43
売上債権	708	383	▲325
棚卸資産	66	199	+133
その他	45	56	+10
流動資産計	1,028	803	▲225
有形固定資産	26	24	▲2
のれん	83	66	▲17
無形固定資産他	19	15	▲4
その他	52	57	+6
固定資産計	181	163	▲18
総資産計	1,209	966	▲243

	'16/3期 期末	'17/3期 3Q末	増 減
買入債務	359	132	▲227
前受金	58	149	+90
短期借入金 ^{*1}	(8)12	(14)17	+5
その他	80	38	▲42
流動負債計	509	336	▲172
長期借入金 ^{*2}	(134)160	(118)145	▲15
その他	59	59	—
固定負債計	218	204	▲15
負債計	727	540	▲187
純資産計	482	426	▲56
負債・純資産合計	1,209	966	▲243

*1 *2 : カッコ内の数値はPFI等プロジェクトファイナンス・ローンの金額

連結キャッシュ・フローの状況

(単位: 億円)

	'16/3期 3Q累計	'17/3期 3Q累計	増 減
現金・現金同等物の前期残高	296	200	▲96
営業キャッシュ・フロー	-3	-1	+2
投資キャッシュ・フロー	-6	-11	▲5
フリー・キャッシュ・フロー	-9	-12	▲3
財務キャッシュ・フロー	-19	-26	▲7
現金・現金同等物に係る 換算差額	0	-4	▲4
現金・現金同等物の期末残高	268	158	▲110

ディスクロージャーポリシー

1. 基本方針

当社グループは、企業理念に基づき、社会とともに持続的な発展を遂げるため、すべてのステークホルダーの皆様への期待にお応えし、社会から信頼され、社会に貢献し続ける企業グループを目指します。この考え方に則り、当社グループは、ステークホルダーの皆様や社会に対して当社グループに係る企業情報を公正・公平かつ適時・適切に開示するとともに、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションをはかることにより、当社グループに対する理解促進をはかり、透明性・信頼性の高い経営に努めます。

2. 情報開示の基準

会社法、金融商品取引法等の諸法令および金融商品取引所が定める規則等により開示が求められる企業情報について、それぞれの法令や規則等に則り、情報開示を行います。また、法令や規則等に該当しない企業情報であっても、ステークホルダーの皆様にとって有用であると判断される情報や社会的に開示が必要と判断される情報について、可能な限り積極的に情報開示を行います。

3. 情報開示の方法

上記の法令や規則等により開示が求められる企業情報については、それぞれの法令や規則等で定められた方法により情報開示を行うとともに、当社ホームページに掲載します。上記の法令や規則等に該当しない企業情報については、その重要性や緊急性を考慮し、報道機関や当社ホームページ等を通じて情報開示を行います。

4. 情報開示後のコミュニケーション

開示した情報に関して、会見、説明会、取材、問い合わせへの回答等を通じ、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションをはかります。また、コミュニケーションを通じてステークホルダーの皆様からいただいたご意見等は、当社グループ内で共有し、今後の参考とさせていただきます。

5. 沈黙期間

決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算(四半期決算を含む)期末日の翌日から決算発表までを沈黙期間とします。沈黙期間中は、業績予想の修正に関する情報開示を行った場合を除き、決算・業績見直しに関する会見、説明会、取材、問い合わせへの回答等は差し控えます。

6. 将来の見通しについて

当社グループが開示する業績予想、戦略、目標等のうち将来の見通しに関する記述は、当社グループがその時点で入手している情報および合理的であると判断される一定の前提を根拠としており、実際の業績等は様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

7. 社内体制の整備

ディスクロージャーポリシーを遵守し、適切な情報開示およびステークホルダーの皆様とのコミュニケーションがはかれるよう、社内体制を構築するとともに社内規程を整備します。



【本資料に関するお問い合わせ先】

メタウォーター株式会社 CSR推進室 広報IR部

Tel: 03-6853-7317 Fax: 03-6853-8709 E-mail: pr@metawater.co.jp